

合併5年目を迎えた

ふるさと野田の歩み

「より住みやすい街をめざして」

平成15年6月6日、野田市と関宿町が合併して、今年で5年目を迎えました。この間、合併時に市民の皆さんからいただいたご意見を反映した「新市建設計画」を基に、行政改革を積極的に展開しつつ、新たに生まれた財源を活用したり、市民の皆さんのご協力により、新市のまちづくりに取り組んでまいりました。今号では、合併して5年目を迎えた野田市の歩みを紹介します。

都市・交通基盤の整備

合併後の新市の一体感を醸成するため、平成16年1月9日からコミュニティバス「まめバス」が北・中・南ルートで運行を始めました。その後、関宿

城・新北・新南ルートを新たに開設し、市内の住宅地と市の施設、病院、駅などを結びながら運行しています。

また、七光台駅(1)・清水公園駅(2)・梅郷駅(3)では、東西連絡自由通路と東口を整備し、エレベーターなどを設

置してバリアフリー(障壁のないこと)化しました。

市の東西南北を結ぶ道路網の整備も進めています。関宿地域と川間駅方面を結ぶ江戸川左岸連絡道路は、整備計画全体の約半分

の拡幅工事が終了し、船形吉春線や、都市計画道路・堤台柳沢線、次木古布内線などの幹線道路も用地買

収を進めています。念願の東京直結鉄道は、埼玉県内のルートが一本化され、19年度は国が調

査費を予算化しました。

福祉業務の充実も

福祉の分野でも、皆さんのニーズに

合わせて各種サービスを始めています。これまで障害の種類ごとに異なっていた受付窓口を一本化した「障害者何でも相談窓口」に、さらにケアマネジメントや就労支援なども加え「障害者総合相談・就労支援センター」(4)として社会福祉課内に開設しました。同課には、週2回、手話通訳者も設置しています。

また、敷地を無償貸与するなど市も積極的な支援を行い、NPO法人運営の精神障害者小規模通所



①七光台駅西口には駅前広場も



②清水公園駅の東西連絡通路は地下式に



③梅郷駅にはエスカレーターも



④障害者総合相談では関係機関との連携も



昨年利用者100万人を達成したまめバス